

**2015年1月 ミャンマー
イラワジ管区訪問（補助助産師育成に関する調査）**

作成者：坂口 瑛里

日時：2015年1月11日(日)

同行者：Dr. Than Sein, Dr. Myo Khin, Dr. Myo Khin の奥様、岡田名誉教授、坂口、他2名

1. Byeik Rural Health Center

Kyaung Gone (チャンゴー) 町区にある Byeik (ビヤイ) 地区の Rural Health Center で補助助産師のヒアリングを行った。ここで働く補助助産師(Auxiliary Midwife)は、みな地元出身であり、ミャンマー政府と病院が提供する6ヶ月の研修を修了したとのことである。ここにいる7名の経験年数は、1年～13年と幅が広く、13年の経験を持つ補助助産師は、年間約15回の出産を介助し、これまで

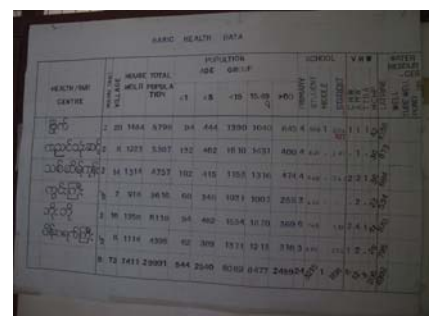
に200以上の出産介助の経験があるとのことであった。この Rural Health Center で、人口約30,000の周辺の地域や村を広くカバーしており、補助助産師が徒歩でまわらなければならない田舎の地域もあるという。この Rural Health Center の他、5つの Sub Health Center がある。2014年度の統計によると、チャンゴー町区の VHW (Village Health Worker)の人数の内訳は、以下の通りである。



VHW	CHW ¹	AMW ²	TBA ³	MCHP ⁴
研修修了人数	20	37	6	210
実働人数	6	18	2	210

¹CHW = Community Health Worker; ²AMW = Auxiliary Midwife
³TBA = Traditional Birth Attendant; ⁴MCHP = Maternal Child Health Promoter

項目	2012	2013	2014
保健施設での出産(助産師介助) (%)	-	10.7	14
自宅分娩(助産師介助) (%)	34.9	26.8	20.7
自宅分娩(補助助産師介助) (%)	-	3.3	5.8
低体重児 (%)	-	1.4	-
病院への紹介 (%)	21	29.8	29
付添人数平均(補助看護師)	2.1	2.4	2.5
付添人数平均(准看護師)	1.4	1.7	1.9
補助看護師の看護の割合(%)	88.7	93.4	99
准看護師の看護の割合 (%)	57	58.6	52



また、この地区の Reproductive

Healthに関する統計は上記の通りである。病院や保健施設での出産よりも、自宅分娩の割合が大きいのが、全体をみるといずれも助産師または補助助産師介助の上での出産の割合は小さいようである。(出所：

2. Kyaung Gone Township Hospital

次に、Kyaung Gone Township Hospital にてヒアリングを行った。この病院は、周辺の約 400 の村への医療供給を担っている。病床は 25 床の規模で、2 名の医師で総合診療を行っている。訪問時、30 名ほどの補助助産師が研修を受けているとのことであった。それぞれの最終学歴は、修士課程を修了したものが 1 名いる他、大学卒、高校卒、そしてほとんどが中学卒（7 年次～9 年次）である。研修中は、教科書を使った講義に加えて、出産介助に立ち会い実地訓練も行う。寮、食事、教材は提供される。その他、母子衛生推進スタッフ(Maternal Child Health Promotor)の研修も行っている。2 日間の研修を終えた MCHP は、母子保健衛生に関する正しい知識や情報を地域に広める役割を担うことになる。ミャンマーの、特に農村部での新生児、乳幼児の高い死亡率の原因の一つとして、母子保健衛生に関する知識が乏しいことが挙げられるが、実践領域で活躍する補助助産師のような専門職の育成に加えて、基礎知識や情報を提供できる人材の育成にも力を入れることも重要であることが伺える。

